

原水禁福島、広島、長崎大会 高教組原水禁ナガサキ平和の旅報告

7月29・30日に原水禁世界大会・福島大会（高教組6人参加）、8月3～6日、原水禁世界大会・広島大会（高教組3人参加）、8月6～9日、原水禁世界大会・長崎大会（高教組14人参加、うち高教組第4回ナガサキ平和の旅参加者13人）が開催されました。

参加者からの感想抜粋

原水禁福島大会

軽米高校分会 石村 隆彦

福島県教育会館にて開催された、被爆72周年原水爆禁止世界大会・福島大会に参加した。全国から720名以上の参加者があり、当日会場は立ち見の参加者も多数出る程の盛況であり、核のいかなる理由如何に関わらず、その使用禁止を訴えた。

大会は2部構成（第1部全体会、第2部分科会）になっており、第1部の全体集会では、大会副実行委員長、福島県平和フォーラム代表者、双葉地方原発反対同盟代表者そして第20代高校生平和大使である福島県内の高校生2年の挨拶が行われた。

福島県平和フォーラム代表者である角田政志さんの「福島の現状を理解してもらうためには、福島の地で語らなければならない。」というお話に共感した。さらに、第20代高校生平和大使の高橋さんからは、“核兵器および原子力発電その他、いかなる核使用禁止”を強く訴え、そして、“自らが経験した、東日本大震災および原発による福島県民の現状”を多くの人々に伝える役割を担いたいと真摯な姿勢で語っていたことが印象的であった。

福島には、今なお、原発の被害に苦しみその苦難の中にいる人々が暮らす。その福島の地で、原発も核も戦争もない平和な社会の実現に向けた訴えをその地で行うことに意義があったように思う。本大会で見聞きしたこと、感じたことを職場そして次世代を担う子供たちに伝え聞かせていかなければならないと強く再認識した。

